

あいさつをめぐる日・韓母語話者の意識の相違¹ ——ポライトネスからの一考察——

岡村佳奈

要旨

本研究では、インタビュー調査を通じ、①なぜ日本人は韓国人よりも定型的あいさつを多用するのか、②なぜ韓国人は相手との親疎関係によってあいさつを使い分けるのに日本人はそのような使い分けをしないのか、という2点に関する母語話者の意識を探りつつ、あいさつの日韓差が生じた原因を考察した。

その結果、日本語の定型的あいさつは主に無標ポライトネス——「あつて当たり前で、それが現れないときに初めてそれがないことが意識され、ポライトではないと捉えられる（宇佐美 2008: 160）」もの——として機能していることがわかった。そのため、日本人はあいさつをあまり使い分けることなく、誰にでも定型的あいさつを頻用するようである。

一方、韓国人は、相手に対する関心・好意、礼儀の必要性の有無が親疎によって異なると思っており、親しくない人にはネガティブ・ポライトネスである定型的あいさつ、親しい人にはポジティブ・ポライトネスである非定型的あいさつを使っていることが明らかになった。親しくない人にもみ定型的あいさつを交わすため、全体としては、日本人よりも定型的あいさつの使用頻度が低くみえるのだと考えられる。

Keywords: 日韓対照、ポライトネス、定型性、定型的 / 非定型的あいさつ、インタビュー調査

1. はじめに

金香来 (2000) で行われた調査によれば、日本人²は、「밥 먹었어? (pap mekesse? ご飯食べた? ³)」、「어디 가세요? (eti kaseyyo? どこ行かれますか?)」のような韓国語のあいさつに抵抗を感じる一方、韓国人は、「すみません」、「お疲れ様」といった日本語のあいさつに抵抗を感じるという。そして、日本人・韓国人が抵抗を感じるあいさつの多くは、それぞれの母語では使われない表現だとも述べられている。母語の影響のために、コミュニケーション上で問題が生じているということになるが、日韓のあいさつにはどのような違いがあり、その違いが生まれた原因は何なのだろうか。

先行研究による言及をいくつか分類するならば、あいさつの日韓差については、第1に、韓国語よりも日本語の方が定型性が高い、つまり、日本人は定型的あいさつを多用するのに、韓国人はそれをを用いる頻度が低いと、金香来 (2000)、서정수 (ソ・ジョンズ 1998) などで頻繁に指摘されてきた。

第2に、韓国では相手との関係に応じて用いる表現を変えるのに対し、日本では誰にでも定型的あいさつが用いられる傾向があると報告されてきた。例を挙げると、朴英順 (2003) は、韓国語では相手によって異なる表現が用いられたり表現の待遇形式が変わったりするが、日本語では定型化された単一語が主に使われると述べている。岡村 (2015) では、日本人は親疎にかかわらず非定型的表現を用いない一方、韓国人は親しい人には「누구랑 왔어? (nwukwulang wasse? 誰と来たの?)」などの非定型的表現、親しくない人には「안녕하세요? (annyenghaseyyo? 安寧ですか?)」などの定型的表現を用いると言及されている。韓国語における親疎関係の影響については、김선정・김예지 (キム・ソンジョン & キム・イェジ

1 本論文は博士論文である「談話における「あいさつ」の日韓対照研究 ——対面会話開始部と終結部の様相から—— (東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、2022)」の第5章に加筆・修正を加えたものである。

2 ある個人の国籍と母語は常に一致するものではないため、国籍が日本である日本人すべてが日本語母語話者とは限らない。しかし、本研究では日本語母語話者を日本人、韓国語母語話者を韓国人と称することとする。

3 韓国語のローマ字表記はイェール式、和訳は筆者によるものである。

2011)、박수란 (パク・スラン 2005) などでも述べられており、例えば、前者によると、韓国人は相手と親しければ、定型的でない言葉を用い、親密度を維持・強化するのに対し、親しくなければ、定型的なあいさつを使用する比率が高いという。しかし、日本語に関する先行研究では、親疎によってあいさつを使い分けることはほとんど報告されていない。相手との関係、特に親疎による使い分けは、日本語よりも韓国語において顕著だといえるだろう。

また、上記のうち、第1の日韓差(定型性に関する差異)が生じた原因については、名倉(2005)、任・井出(2004)などで論じられているが、使用している用語は違うものの、あいさつにおける日韓差は、両国の「コミュニケーションに対する志向性」によるものだと結論づけられているように見受けられる。例えば、名倉(2005)ではあいさつの日韓差は、両国の文化コンテキストとコミュニケーション・ルールが異なるからだと述べられている。具体的には、韓国語は「表意言語」であり、あいさつする際にも伝えたいことを明確に表現するのに対し、日本語は「隠没言語」であり、あいさつでも伝えたい部分を省略し、定型化しながら、言葉の裏側を察するよう促すと言及している。任・井出(2004)は、Brown & Levinson(1987[1978])のポライトネス理論による説明を試み、日本で好まれる定型的あいさつはネガティブ・ポライトネス、韓国語で用いられる「예쁘게 입으세요 (yeppukey ipuseyyo きれいに着て下さい)」など命令形の表現や意味が曖昧でない多様な表現はポジティブ・ポライトネスに則ったものだと述べながら、ポライトネスに関する好みの違いがあいさつにおける日韓差を生じさせたとし唆している。

だが、これらの先行研究は、定型性に関する日韓差を、理論的な枠組みや研究者の主観によって解釈しているにとどまっており、データを示しながら「あいさつの日韓差が『コミュニケーションに対する志向性』に起因している」という根拠を示すことができていない。そのほか、なぜ韓国人は日本人に比べ、相手との関係、特に親疎に応じてあいさつを使い分けるのかという第2の日韓差については全く触れられていないという問題点も指摘できる。

そこで、本研究では、インタビュー調査を実施し、①なぜ日本人は韓国人よりも定型的あいさつを多用するのか、②なぜ韓国人は相手との親疎関係によってあいさつを使い分けるのに日本人はそのような使い分けをしないのか、という点に関する母語話者の意識を探りつつ、あいさつの日韓差が生じた原因を考察してみることとする。

2. 分析の前提

2.1. インタビュー調査の概要

前章で述べた研究目的のため、内省的方法の1つであるインタビュー調査を行うこととした。ネウストプニー J.V. (2002: 28) でも指摘されている通り、文法外コミュニケーションに関するルールや使用様相は、文法ほど自動化されておらず、その使用には、何かしらの言語管理意識が影響している。そのため、内省的方法を用い、あいさつに関する日本人・韓国人の意識を探れば、日韓差が生じた原因を明らかにできると考えた。

研究対象とするインタビュー・データは、あいさつの日韓様相を明らかにしようと実施した口頭言語産出アンケートに対するフォローアップ・インタビューを通じて収集されたものである。口頭言語産出アンケートでは、<表1>のような8つの場面をインフォーマントの母語で提示した後、それぞれの場面で親しい目上・親しい同年輩・親しい目下・親しくない目上・親しくない同年輩・親しくない目下(計6パターンの聞き手)にどうあいさつするか口頭で自由に答えてもらうよう依頼した。つまり、アンケートは48項目(8場面×6名)で構成されていたということである。

<表1>

口頭言語産出アンケートで提示した場面と質問⁴

| | 場面 | 提示した質問 |
|-------------|-----------------|---|
| 出 会 い | 場面1 日常的に出会った時 | 学校に着いたところ、先に来ていた次のような日本人 / 韓国人と目があいました。何とあいさつしますか。 |
| | 場面2 偶然出会った時 | 東京都内 / ソウル市内にある有名デパートで次のような日本人 / 韓国人に偶然会いました。何とあいさつしますか。 |
| | 場面3 久しぶりに出会った時 | 夏休みの後、次のような日本人 / 韓国人と久しぶりに会いました。何とあいさつしますか。 |
| 別 れ | 場面4 日常的に別れる時 | 次のような日本人 / 韓国人と一緒に食事をしました。別れ際、何とあいさつしますか。 |
| | 場面5 相手が先に帰る時 | 学校の人と集まっていた席で次のような日本人 / 韓国人が先に帰ることになりました。別れ際、何とあいさつしますか。 |
| | 場面6 長らく会えなくなった時 | 次のような日本人 / 韓国人が田舎に引っ越すことになり、しばらく会えなくなってしまいました。別れ際、何とあいさつしますか。 |
| 特 殊 | 場面7 訪問する時 | 引越しパーティーに招待され、次のような人の家を訪問することになりました。何とあいさつしますか。 |
| | 場面8 お見舞いする時 | 盲腸の手術をした次のような人をお見舞いに病院に行きました。何とあいさつしますか。 |

インタビューは、このような調査を実施した直後、アンケート調査の回答者全員に対し、インフォーマントの母語を使用して行った。アンケートに対する回答をみながら、「どうして〇〇とあいさつしましたか。」「この場面で〇〇のような表現を使うのはどうですか。」などと主に尋ねたが、インフォーマントの反応にあわせて質問を随時変更するという半構造化インタビューの形式を採った。

なお、この2つの調査に協力したインフォーマントは、首都圏在住の日本人25名(男性:12名、女性:13名、平均年齢:28.9歳)、および、ソウル・京畿道在住の韓国人25名(男性:13名、女性:12名、平均年齢:29.6歳)であり、調査期間は2012年7~9月(韓国人を対象)、2014年8~12月(日本人を対象)であった。

2.2. あいさつの種類、および、ポライトネス理論との関連性

あいさつは、「人と人が出会ったときや別れるときに社交・儀礼的に交わす言葉や動作で、相手に敬意や情意を示して、好意的な関係を結んだり維持したりする行為」と、名倉(2005: 69-70)では定義づけられている。本研究では、このうちの「言葉」のみを研究対象とするが、서정수(ソ・ジョンズ 1998: 14)では、あいさつ言葉の大部分は定型化していると述べられている。だが、私たちは常に定型化したあいさつのみを使っているわけではない。そのため、あいさつは、①「あいさつする場面において決まり文句として用いられている表現であり、言語形式が固定化しているあまり元来持っていた命題、意味が失われたり希薄化している定型的表現、および、その派生形と変種⁵」である「定型的あいさつ」と、②それ以外の言語表現である「非定型的あいさつ」に大別される。それぞれに属する表現の例は、次の通りである。

4 韓国人には韓国語に翻訳した場面や質問を提示した。

5 土屋(1998: 59)による「決まり言葉的なあいさつの言語形式とその変種」、小林(1981: 89)による「一種の符帳的合図、または極端な省略表現で、意味の上からはいわゆる「非命題的」(non-propositional)とされる表現である。」などの先行研究を参考に定義づけを行った。

定型的あいさつ：

日本語：おはようございます、お疲れ様です、おす、ういーす⁶、バイバイ、等
 韓国語：안녕? (安寧?)、오랜만이야 (久しぶり)、잘 가 (よく行け)、等

非定型的あいさつ：

日本語：元気だった?、どうしたの?、また連絡します、気をつけて、等
 韓国語：어디 가세요? (どこ行かれますか?)、가지 마 (行かないで)、等

前述の通り、任・井出（2004）は、ポライトネス理論によってこの2種類のあいさつが持つ発話効果を示し、定型的あいさつはネガティブ・ポライトネス（以下、NP）に相当し、多種多様な表現や命令形の表現、つまり、非定型的あいさつはポジティブ・ポライトネス（以下、PP）に相当すると言及したが、NP / PPとは、Brown & Levinson（1987 [1978]）で提唱されたポライトネス理論における概念であり、人間が持つ以下のような基本的欲求をそれぞれ配慮する行為のことを指す。

ネガティブ・フェイス：

すべての「能力ある成人構成員」（competent adult member）が持っている、自分の行動を他者から邪魔されたくないという欲求

ポジティブ・フェイス：

すべての構成員が持っている、自分の欲求が少なくとも何人かの他者にとって好ましいものであってほしいという欲求

（Brown & Levinson 1987 [1978]、田中典子監訳 2011: 80）

彼らによれば、すべての成人構成員は、互いのフェイスに配慮する必要がある。そして、他者を配慮する方法は、どちらのフェイスを考慮するかによって2つに分かれるという。その1つがネガティブ・フェイスを守るNPであり、相手と距離を置きたい時や、相手に配慮や敬意を示したい時に有用な方法である。もう1つは、ポジティブ・フェイスに対応するPPであり、相手との距離を縮めたり親密さを表明したい時に現れるものである。ところが、この2つは対極的な関係にあり、NPはネガティブ・フェイスを満たす代わりにポジティブ・フェイスを、PPは反対にネガティブ・フェイスを侵害する危険性を伴っているといわれている。

さて、あいさつに話を戻すと、定型的あいさつがNPとして機能すると任・井出（2004）で解釈されている理由は、Brown & Levinson（1987 [1978]）による<表2>のようなポライトネス・ストラテジーによって「慣習に基づき間接的であれ」、つまり、習慣的な表現はNPだとされているためだと考えられる。それに対して、「元気だった?」のような非定型的あいさつがPPだとされるのは、多くの非定型的あいさつが<表2>で示したPPストラテジーと対応していることに起因しているのだろう。

6 定型的あいさつに「定型的表現、および、その派生形と変種」を含めたため、「おす」や「ういーす」も定型的あいさつだとみなした。これらを定型的あいさつだとみなすことについては、異論もあるだろう。だが、「おはよう」などから派生した表現であるという理由により、「どうしたの?」、「また連絡します」といった非定型的あいさつと同じように扱うべきではないのではないかと考える。

<表2>

Brown & Levinson (1987 [1978]) のポライトネス・ストラテジー⁷

| | |
|-----------|--------------------------------|
| NP ストラテジー | 慣習に基づき間接的であれ |
| | H (の興味、欲求、ニーズ、持ち物) に気づき、注意を向けよ |
| | 仲間ウチであることを示す指標を用いよ |
| PP ストラテジー | 共通基盤を想定・喚起・主張せよ |
| | 冗談を言え |
| | H に贈り物をせよ (品物、共感、理解、協力) |

だが、「定型的あいさつ = NP」、「非定型的あいさつ = PP」と単純に結論づけて良いかは不明であるため、あいさつに対する母語話者の意識をインタビュー調査によって聴取し、任・井出 (2004) で用いられていたポライトネス理論を援用しつつ、そのインタビュー内容を考察することとした。

3. 韓国人によるあいさつへの意識

3.1. インタビュー調査の結果

前述の通り、韓国人は、①定型的あいさつを用いる頻度が低い、②親しい人には非定型的あいさつ、親しくない人には定型的あいさつを多用する、と先行研究では言及されてきた。しかし、この2つは関連しており、「親しくない人へのみ定型的あいさつを好んで用いるため、全体的には定型的あいさつの使用頻度が低い」ように見えるのだと考えられる。

では、韓国人はなぜ親疎関係によって、あいさつを使い分けるのだろうか。

筆者が実施した口頭言語産出アンケートでも韓国人は、親疎によって定型的 / 非定型的あいさつを選択的に用いていたが、その使い分けの理由に対するインタビュー結果が<表3>である。

<表3>

韓国人によるあいさつの使用理由 (複数回答含)

| 親しくない人 → 定型的あいさつ使用 | 親しい人 → 非定型的あいさつ使用 |
|------------------------------|---|
| 関心・好意がないから (18名) | 関心・好意があるから (22名) |
| 礼儀を守りたいから (14名) | 礼儀を守らない、もしくは、定型的あいさつを言わなくても理解しあえるから (14名) |
| 会話が続かないから、会話を続ける必要がないから (4名) | 会話が続くから、会話を続けたいから (5名) |
| 定型的あいさつは言うべきだから (3名) | 正直に言いあえるから (2名) |
| よく知らない間柄だから (2名) | 雰囲気をややかにしたいから (2名) |
| 見せかけだけになるかもしれないから (2名) | |

このうちもっとも回答者数が多かったのは、相手に対する「関心・好意がないから」、「関心・好意があるから」だった。相手への関心・好意の有無が親疎によって異なり、それが定型的 / 非定型的あいさつに影響しているということである。

例えば、口頭言語産出アンケートでは、久しぶりに出会う場面3において、親しい人には「여름 휴가 잘 다녀오셨나요? (yelum hyuka cal tanyeosyessnayo? 夏の休暇、よく行ってきましたか?)」などの非定型的あいさつが頻用されていた一方、親しくない人には「안녕하세요? (annyenghaseyyo? 安寧ですか?)」という定型的あいさつがよく観察されたが、前者には持っている関心・好意を、後者には持ってい

7 NP / PP ストラテジーのうち、あいさつと関連があると思われるもののみ提示した。

ないため、簡単にあいさつしたいという以下のような回答が多くみられた。

친한 사람들하고는 반가우니까 더 많은 대화를 나누고 싶고 특히 여름 방학이 끝나고 왔으니까 궁금한 거죠. 그 사람이 여름 방학에 어디를 다녀왔는지 무엇을 했는지, 아니면 아팠는지 건강했는지 재미있게 잘 지냈는지 궁금하니까 뒷말을 계속 이어 가기 위해서 내가 질문을 던지는 거고. 친하지 않은 사람은 굳이 궁금하지 않으니까 말을 길게 할 필요성이 없으니까 인사만 하고 끝나는 거죠. (親しい人とは会えて嬉しいから、もっとたくさん対話を分かちあいたくて、特に夏休みが終わってから会ったので気になったんです。その人が夏休みどこに行ってきたのか何をしたのか、あるいは、具合が悪かったのか健康だったのか楽しく過ごしたのかが気になるから、次の言葉をずっと繋いでいくために私が質問を投げかけました。親しくない人はあえて気にならないから、言葉を長く言う必要性がないから、あいさつだけして終わります。)⁸

[K24 インタビュー内容より抜粋]

また、聞き手が先に帰る場面5でも上記と類似したインタビュー内容が多数得られた。この場面では、親しい人には「무슨 일이야? 왜 먼저 가는데? (mwusun iliya? way mence kanuntey? どうしたの? どうして先に帰るの?)」といった表現、親しくない人には「잘 가 (cal ka よく行け)」などの定型的あいさつがよく使用されていた。そこで、アンケート調査後に、あいさつを使い分ける理由を質問したところ、前者には名残惜しさが生じる一方、後者にはそのような気持ちがないため、定型的あいさつを使うほかなかったという意見が多く得られた。

回答者: 친한 친구가 먼저 가면 나랑 떨어지니까 그거에 대한 섭섭함이 있는 것 같아요. …… (親しい友だちが先に行ったら、私と離れるのだから、それに対する寂しさがあるような気がします。……)

筆者: 그러면 왜 친하지 않은 사람한테는 그냥 ‘잘 가’라고 하면서 그냥 보내 줬는지, 왜 붙잡지 않으셨나요? (じゃあ、どうして親しくない人にはただ「잘 가 (cal ka よく行け)」と言いながらただ送ってあげたのか、どうして引き留められなかったんですか。)

回答者: 친하지 않기 때문에 같이 있어도 그만, 같이 없어도 그만이니까요. (親しくないから一緒にいてもいいし、一緒にいなくてもいいからです。)

[K3 インタビュー内容より抜粋]

2番目に多かった回答は、「礼儀を守りたいから」と「礼儀を守らない、もしくは、定型的あいさつを言わなくても理解しあえるから」だった。以下は、その回答例である。

(친하지 않은 사람에게는)⁹ 우선 맨 처음에 ‘안녕?’, ‘안녕하세요?’ 안 하면 내가 그 사람한테 무례해 보일 수 있을 것 같아서. 우선 맨 처음에 인사를 하고 그 다음에 얘기를 해야 할 것 같아요. 예절을 지키는 그런…… (친한 사람에게는) 내가 굳이 그렇게 인사를 하지 않아도 그 사람은 나랑 친한 걸 서로 아니까 그거에 대해서 크게 생각을 하지 않을 것 같고, 나도 편하고 그 사람도, 상대방도 편해서 그거를 생략한다고 해서 서로 마음 상하거나 그런 걸 알기 때문에 (정형적 인사말이) 안 나오는 것 같아요. ((親しくない人には) まず最初に「안녕 (annyeng? 安寧?)」、「안녕하세요? (annyenghaseyyo? 安寧ですか?)」と言わなければ、私がその人に無礼にみえるかもしれないから。まず最初にあいさつをして、その後に話をしなければならぬと思います。礼節を守る、そういう…… (親しい人には)

8 インタビュー内容の文字起こしは、読みやすさを考慮して、フィラーや言い間違いなどを省く「ケバ取り」で行った。

9 括弧内はインタビューの内容がわかりやすくなるよう、筆者が注意書きした部分である。

私があえてそうあいさつをしなくても、その人は私と親しいことを互いに知っているから、それについて大きく考えないだろうし、私も楽で、その人も、相手も楽だから、それを省略したからといって互いに心が傷ついたりそういうことを知っているから (定型的あいさつが) 出てこないんだと思います。)

[K12 インタビュー内容より抜粋]

親しくない人には無礼にみえないよう礼儀を示せる定型的あいさつを用いたいが、親しい人には礼儀を示さなくても構わないため、その使用が省略できるということであり、「礼儀の必要性 / 不要性」がそのまま「定型的あいさつの必要性 / 不要性」に直結していることが窺えた。

さらに、韓国人のなかには、「定型的あいさつ = 礼儀・格式」だと明言している次のような人もみられた。

回答者: 친한 사람한테는 격이 없이 대하지만 친하지 않은 사람한테는 마음이 없지만 예의를 갖추는 것 같아요. (親しい人には隔たりなく接しますが、親しくない人には心はないけど礼儀を正すように感じました。)

筆者: 마음은 없어요? (心はありませんか。)

回答者: 그 사람을 좋아하지 않지만 예의를 갖춘다고 할까요? ……격식이라는 것은 상대방과의 거리를 더 멀게 만드는 역할을 하는 것 같아요. (その人が好きではないけど、礼儀を正すとでもいいでしょうか。……格式というものは、相手との距離をもっと遠ざける役割をすると思います。)

筆者: 격식이요? (格式ですか。)

回答者: 다양한 인사가 아니라 한국사람이 좋아하는 인사예절은 어느 정도 사람과 사람과의 간의 거리를 유지하는 역할을 하는 것 같아요. (多様なあいさつではなく、韓国人が好むあいさつの礼節は、ある程度、人と人との間の距離を維持する役割をしていると思います。)

[K10 インタビュー内容より抜粋]

このインフォーマントによれば、礼儀・格式は相手との距離を維持したり遠ざけるものであり、「あいさつの礼節」である定型的あいさつは、礼儀・格式であるという。インタビューのなかでは、ほかの韓国人と同様、親疎関係によって礼儀の必要性 / 不要性を判断するとも述べていたが、「定型的あいさつ = 礼儀・格式 = 距離感の表示」であるため、それが必要だと思われる親しくない人にも定型的あいさつを使用するのだろう。

3.2. 韓国人の意識に対するポライトネスからの考察

以上、「関心・好意」、「礼儀」という2つの観点からポライトネス理論に照らしあわせて考えてみると、韓国人は、相手との距離を見積もりつつ、ポライトネスを適切に使い分けしていると解釈される。

このようなポライトネスの使い分けは、韓国語以外の言語でもみられる現象だろうが、非定型的あいさつによって実現されるPPは、相手に親近感を与える一方、聞き手との距離を小さく見積もる踏み込みが要求される。そのため、滝浦 (2008: 37) で指摘されている通り、相手が相応の距離を維持しておきたいと感じている時には「凶々しい」、「馴れ馴れしい」という印象を持たれる。ポジティブ・フェイスと相反する概念であるネガティブ・フェイスを脅かすためである。よって、相手との距離が離れている親しくない人に対しては、そのような発話をするのができず、無礼にみえないようNPに相当する定型的あいさつを選択するのだろう。

一方、親しい人に対しては、相互間の距離を互いに小さくみなしているだろうという信頼があり、ネガティブ・フェイスを侵害しても無礼にみえる憂慮がないと判断していることがインタビューから明らかになった。そのため、礼儀に直結するNPを避けることができたのである。また、次の2つのインタビュー内容は、「非常に親しい人が自分に『안녕? (annyeng? 安寧?)』とあいさつしてきたらどう思うか」という質問に

対する回答を示したものである。これらの回答からも窺える通り、NPに相当する定型的あいさつは、相手への関心や好意の欠如を示してしまうため、仮に親しい人にこのような表現を用いた場合、「よそよそしさ」や意図していない誤解を与えてしまうこともあるようである。

지금 질문자께서 질문을 해 줬을 때 딱 드는 느낌은 ‘어, 나랑 안 친한가?’ 라는 생각이 좀 들기도 해요. (今、質問者が質問してくれた時、パツと思った感じは「お、僕と親しくないのかな?」という気持ちがちょっとしたりします。)

[K1 インタビュー内容より抜粋]

상대가 피곤하다든지 자기 상태가 안 좋다든지 나한테 언짢은 게 있다든지 그렇게 느낄 거 같아요. (相手が疲れているとか、自分(相手)の状態が良くないとか、私に不快に思っていることがあるとか、そう感じると思います。)

[K3 インタビュー内容より抜粋]

ここまで、韓国人は親疎によってあいさつを使い分けているという前提で議論を進めてきたが、親しい人に対しても定型的あいさつを用いていたインフォーマントの意識も紹介したいと思う。

以下は、親しい人にも「오랜만이야 (olaynmaniya 久しぶり)」、「잘 가 (cal ka よく行け)」など定型的あいさつを用いていた人から得られた内容である。

친한 사람들한테는 ‘안녕’ 이라는 뜻을 내포하는 여러 가지, 외래어가 될 수도 있고 한국 말이 될 수도 있는데, 그 말을 친한 사람들끼리는 예를 들면 억양을 딱 정식 억양을 써서 말하지 않게 되는 거 같아요. 그 억양으로도 친밀함을 표현하게 되는 거 같아요. 예를 들면 똑같이 ‘안녕하세요?’ 라고 해도 친한 사람들한테는 ‘(낮은 목소리로) 안녕하세요-?’ 이런 식으로. 그리고 친하지 않은 사람들한테는 그냥 정식으로 ‘안녕하세요?’ 이렇게. (친하지 않은 사람에게는) 예의에 벗어나지 않아야 된다는 그런 마음이 있는 거 같아요. (親しい人たちには「안녕 (annyeong 安寧)」という意味を含む色々な、外来語かもしれないし、韓国語かもしれないけど、その言葉を親しい人同士では、例えば、抑揚を正式な抑揚で言わないと思います。その抑揚でも親密さを表すんだと思います。例えば、同じ「안녕하세요? (annyeonghaseyyo? 安寧ですか?)」だとしても、親しい人たちには「(低い声で) 안녕하세요-? (annyeonghaseyyo -? 安寧ですか-?)」こんな風に。そして、親しくない人たちには、ただ正式に「안녕하세요? (annyeonghaseyyo? 安寧ですか?)」こうやって。(親しくない人には) 礼儀から外れてはならないという、そんな気持ちがあるんだと思います。)

[K4 インタビュー内容より抜粋]

親しい人にも「안녕? (annyeong? 安寧?)」のような定型的あいさつが使用可能ではあるものの、そのような場合には、礼儀に反しない正式な抑揚ではなく、普通ではない抑揚でそれを言うということである。定型的あいさつを正式ではない抑揚で発することによっても、礼儀から外れ、親しみを表すことができるのだと考えられる。何かしらの方法で「礼儀・格式」から外れさえすれば、親しみを表すことができ、その手段として定型的あいさつの不使用ではなく、通常ではない抑揚という方法を選び、あいさつしようとしたということなのだろう。

韓国人にとっての定型的あいさつは「礼儀・格式」であり、NPとして基本的には機能しているが、「通常、定型的あいさつはこのような言葉を、このような言い方とするもの」というようなイメージが、韓国人の間で共有されているのかもしれない。そして、正式ではない抑揚を用いたりしながら、そのイメージから外れさえすれば、親しみを帯びると認識されているのではないだろうか。

4. 日本人によるあいさつへの意識

4.1. インタビュー調査の結果

先行研究によれば、日本人は、定型的あいさつを多用するといわれている。筆者が行った口頭言語産出アンケートを通じて、日本人は定型的あいさつの使用頻度が高いということが確認されたほか、非定型的あいさつを用いる場合でも、それを単独で用いるのではなく、「おはよう。最近どう？」のように定型的あいさつを伴ってよく使用されていた。そこで、インタビューを実施したところ、25名中15名から、会話の前後、もしくは、出会い頭や別れ際には、誰に対してでも必ず定型的あいさつを使うという次のような回答が得られ、なかには、定型的あいさつがないと、不快感や驚きなど否定的な感情を覚えるインフォーマントもいることがわかった。

筆者：絶対「久しぶり」っていうのを言ってから、「何してたの？」とか「元気？」とかおっしやっていたんですけど、「久しぶり」なしで、突然会って「あ、夏休み何してたの？」とか「元気だった？」っていうのは大丈夫そうですか。

回答者：大丈夫かもしれないけど、たぶんかな、絶対的ぐらいに久しぶりに会ったら「久しぶりだね」って言っちゃうかな。……（定型的あいさつを）つけなきゃいけないとは思ってないけど、でも、いきなりその人の近況を聞いたりとか何かする前に、とりあえず「久しぶり」のあいさつはするのが習慣。「おはよう」も「久しぶり」もたぶん会った場合もメールとかでも、ちょっとチャットとかになると時々用件だけ入れちゃう時、チャットとかラインとかだとあるけど、基本的に会社のメールとかでも何でも、まずあいさつしてから、用件とか話したいことに入って行く。

筆者：……誰かがJ9さんに会って突然「久しぶり」とか言わないで、「夏休み何してたんですか？」みたいな感じだったらどういう風に思われますか。不快な感じとか不思議な感じとかされませんか。

回答者：不快は感じないけど、親しかったら全然自然に「何やってたの？」って言われたら、あの「こうこうしてたよ。何やってたの？」みたいな。そしたら言わないかもね、「久しぶり」って、あっちからも「わー」って来てたら。

筆者：特に嫌な感じとか、そういうのは？

回答者：ない。ただ親しくない人にいきなり、あの、会った瞬間に「何してたの？夏休み」とか言われたら、「え、なんか関係ありますか？」みたいな、なるかもしれない。

[J9 インタビュー内容より抜粋]

では、なぜ日本人は、相手を問わず定型的あいさつを使用するのだろうか。

その理由を探るため、インタビューでは、「なぜそのようなあいさつを使ったのか」、「定型的あいさつを除いて非定型的な表現のみを言うのはどうか」という質問を投げかけたほか、「別の表現を使うのはどうか」と特定の非定型的あいさつ¹⁰を例に挙げながら尋ねてみた。非定型的あいさつの使用を避けたいという気持ちから、定型的あいさつを頻用している可能性もあると考えたためである。

<表4>は、そのような質問に対する回答をまとめたものである。まず、定型的あいさつを使用した理由からみると、もっとも回答者数が多かった答えは、「そうあいさつするのが習慣・自然だから」であった。

10 例えば、学校で友人に出会ったという場面1では、韓国人が「일찍 왔네 (ilccik wassney 早く来たね)」などをよく用いていたため、「早いね」などという表現はどうかと尋ねた。

〈表4〉

日本人によるあいさつの使用 / 非使用理由 (複数回答含)

| 定型的あいさつ使用 | 非定型的あいさつ非使用 |
|------------------------------|------------------------------|
| そうあいさつするのが習慣・自然だから (14名) | 会話の途中に言う表現だから (12名) |
| その場面に適したあいさつだから (9名) | 立ち入ったり詮索したりしたくないから (8名) |
| 特に理由はない (5名) | 恥ずかしい、気持ち悪いから (5名) |
| あいさつで気づいてもらいたから (3名) | 違う状況や、詳しい状況を想定していなかったから (4名) |
| 会話の前後にあいさつはするから (2名) | そう言わなくても通じるから (4名) |
| 周りもそう言うから、同伴者がいると思ったから (各1名) | 関心がないから (4名) |
| | 自分の意図などを誤解されるかもしれないから (2名) |
| | 言わない理由はわからない (3名) |

以下は、その回答例である。相手が先に帰る場面5で「お疲れ様。気をつけて。」「お疲れ様。また今度ね。」のように発していたJ3は、必ずしも定型的あいさつが必要ではないが、「お疲れ様」と言うのが自分の癖・習慣であり、定型的あいさつを交わすことが自分にとっての「普通」であると述べていた。

筆者：「お疲れ様」抜かして「気をつけてね」だけとか「また今度ね」だけはどうですか。

回答者：「また今度ね」だけの時もあるんですけど、集まりの時って、結構何でも遊びとか、真面目なことで集まったりとか、両方別れるとか、先に帰るっていう時には「お疲れ」って言うのが癖になってるっていうか、それが今、私の普段の生活のなかで普通になっちゃってるので言いました。

〔J3 インタビュー内容より抜粋〕

2番目に多かった定型的あいさつの使用理由は「その場面に適したあいさつだから」、3番目に多かったのは「特に理由はない」であり、以下は、その回答例である。この2つは、定型的あいさつを使う理由を深く考えていないという点では類似していた。だが、「その場面に適したあいさつだから」に分類されるJ25による言及は、出会ったり別れたりする時間帯や場面を考慮しながら、その場面にふさわしい定型的あいさつを選択して使っているという点で、J19の意見と違いがみられた。

筆者：「おはよう」とかを言いたい理由って何かありますか。

回答者：朝っていう設定？

筆者：例えば朝だったら。

回答者：そのへんは深く考えず、朝だから「おはよう」、昼だから「こんにちは」、夜だから「こんばんは」みたいな感じで、そうですね、はい。

〔J25 インタビュー内容より抜粋〕

筆者：さっきと同じ質問なんですが、「久しぶり」を入れる理由とかはありますか。

回答者：理由は特にないです。

〔J19 インタビュー内容より抜粋〕

続いて、非定型的あいさつを用いなかった理由のうち、1番多かった回答は、以下のような「会話の途中に言う表現だから」であった。「こんにちは」などの定型的あいさつではなく、「どうしたの？」のような非定型的あいさつを用いることもあるものの、そのような表現は会話をしている最中に使いたいという回答が25名中12名から得られた。「会話の前後、もしくは出会い頭や別れ際に必ず定型的あいさつを使っている」という本節の冒頭で紹介した意見とも一致するものであるが、以下からも「定型的あいさつ (出会い頭) →

非定型的あいさつ」、もしくは、「非定型的あいさつ → 定型的あいさつ (別れ際)」という順序性を日本人が重要視しており、定型的あいさつによる明示的な会話の開始表示・終了表示が求められていることが確認された。

筆者：2番目の状況で、偶然会ったので、全員に「こんにちは」だったんですけど、これも「どうしたの?」とか「何買いに来たの?」、「誰と来たの?」とかそういうあいさつは、どうですか。

回答者：「こんにちは」の後に続く言葉で、そういう言葉は出ると思ったんですけど、最初に何て声かけるかっていうと、あいさつからかなと思ってそう（「こんにちは」と）言いました。

[J19 インタビュー内容より抜粋]

次に多かった非定型的あいさつを使用しない理由は、「立ち入ったり詮索したりしたくないから」であった。例えば、偶然に出会ったという場面2に関して「何買いに来たの?」、「誰と来たの?」といった非定型的あいさつを使うのはどうかと尋ねたところ、そのような表現は詮索しているようにも捉えられるため、親しい間柄でも使用を控えたいという回答が8名から得られた。

筆者：こういった場面で「何しに来たの?」とか「何買いに来たの?」、「誰と来たの?」とかそういうあいさつはどうですか。

回答者：デパートなどで買い物に来ているのは当然として、そこまで「何買ったの?」とかまでは、詮索しているみたいで、僕はしないです。

(中略)

筆者：詮索したくないとか、詮索すると嫌だろうっていうのは……親しい人でもそうですか。

回答者：親しい人、それでもちょっと考えます。親しくても聞かれたくないことだったらどうしようとか考えてしまうので。

[J25 インタビュー内容より抜粋]

4.2. 日本人の意識に対するポライトネスからの考察

任・井出(2004)では、日本で多用される定型的あいさつは、NPに則したものだと言及されていた。だが、ここまでみてきたように、インタビュー調査からは「礼儀を考えて」、「相手を配慮して」などネガティブ・フェイスを考慮したために定型的あいさつを使用しているという意見は1例も得ることができなかった。したがって、「日本人による定型的あいさつの使用 = NP」と短絡的に考えるのはやや早計かもしれない。

2.2.でも述べたように「慣習に基づき間接的であれ」がNP戦略として挙げられており、慣習的な定型的あいさつを用いること自体が、NPに則っている証だとも捉えられる。また、非定型的あいさつを用いない理由として、「立ち入ったり詮索したりしたくないから」という点を挙げたインフォーマントもいたことから、ネガティブ・フェイスを考慮しながら非定型的あいさつを回避し、その代替手段として定型的あいさつを用いている日本人も実は一定数いるのではないかと推測される。定型的あいさつを使用している理由として「そうあいさつするのが習慣・自然だから」などと答えた人のなかには、相手のネガティブ・フェイスを侵害してしまう非定型的あいさつを避けたいという潜在的な意識によって、NPに当たる定型的あいさつを頻用しているにもかかわらず、そのような自分の言語使用を意識化、あるいは、言語化できなかった人が含まれているのではないかと推測される。

しかし、インタビュー内容をみた限りでは、NP / PP という物差しのみで日本人の定型的あいさつ使用を解釈しようとするのではなく、宇佐美(2001; 2008)で論じられている「無標ポライトネス (以下、無標P)」も援用しながら考察した方がいいのではないかと判断される。

ここでいう無標Pとは、ディスコース・ポライトネス理論¹¹のなかで述べられている概念であるが、そのなかで宇佐美（2001; 2008）は、Brown & Levinson（1987 [1978]）によるポライトネスは、相手のフェイスを侵害する行為（依頼・褒めなど）を行う時、そのフェイス侵害度を軽減させるために採るストラテジーだと説明しつつ、日常会話にはフェイス侵害行為が生じていないポライトネスもあると言及している¹²。そして、そのような「あって当たり前で、それが現れないときに初めてそれがないことが意識され、ポライトではないと捉えられる（宇佐美2008: 160）」ものを無標Pと呼んでおり、そのような無標の状態、つまり、もっとも自然で最適な状態から逸脱した場合に、①親しみを表すなどのプラス・ポライトネス効果、②命題内容を強調するなどの言語的談話効果、③不快感を与えるマイナス・ポライトネス効果、のような何らかの特別な効果を生むとしている。

このような無標Pも念頭に置きながら、日本人によるインタビュー内容を再度みると、「そうあいさつするのが習慣・自然だから」というもっとも回答者が多かった定型的あいさつの使用理由は、定型的あいさつがあるのが当然という観点から無標Pと相通じるところがあり、「特に理由はない」も定型的あいさつを交わすのが無標であるために、なぜそう言うのか理由がわからないという意味でそう答えていたと推察される。また、「その場面に適したあいさつだから」という回答も、場面設定が考慮されてはいるものの、以下に再掲した通り、「（あいさつを使う理由を）深く考えず」と述べられていたため、無意識のうちに定型的あいさつが使われるという無標Pと一致している。

筆者：「おはよう」とかを言いたい理由って何かありますか。

回答者：朝っていう設定？

筆者：例えば朝だったら。

回答者：そのへんは深く考えず、朝だから「おはよう」、昼だから「こんにちは」、夜だから「こんばんは」みたいな感じで、そうですね、はい。

[J25 インタビュー内容より抜粋（再掲）]

したがって、無標Pという概念を分析の枠組みに含めた上で、改めて考えてみると、結局のところ、これらの回答は、「会話の前後に定型的あいさつによって、言葉を交わすことが無標Pだから定型的あいさつを使用した」と解釈できる。日本人にとっての定型的あいさつとは、NPとしての性格を帯びつつも、無標Pとして強く機能しているものであるため、相手との親疎を問わず、定型的あいさつを交わしていると考えられるだろう。

ここまで日本人が定型的あいさつを誰にでも用いている原因を探ってきたが、はたして、日本人はあいさつする際、相手との関係を全く考慮していないのだろうか。

インタビューの結果、相手との親しさによっては、あいさつを使い分けていないことが、アンケートを通じて自己分析できたと25名中7名が述べており、特に次のようなインフォーマントは、親しい友人に対してでも砕けた表現を用いないのは、あいさつを交わす際に言う内容を重要視していないからだと言及していた。あいさつすること自体が重要なのであって、何を言うかには注意を払っていないということなのだろう。

11 ディスコース・ポライトネス理論は、Brown & Levinson（1987 [1978]）によるポライトネス理論を修正したものである。①文レベル・発話行為レベルでポライトネスを捉えているため、各言語の構造の違いが大きく影響してしまう、②「特にポライトでもないが、失礼でもない」言語行動やインポライトネスの位置づけが明確に示されていない、③言語行動に対する聞き手の観点、および、話者同士の相互作用の観点からポライトネス理論には組み込まれていない、などの問題点を克服すべく、談話における基本（無標）状態を同定し、そこから逸脱しているかどうかという「動き」をみることによって、ポライトネス効果を相対的に分析することが提案されている。

12 ただし、滝浦（2008: 29-30）は、Brown & Levinson（1987 [1978]）のポライトネスについて「会話の場において表現・伝達される、主として相手のフェイスを侵害することに対する軽減的・補償的な言語的配慮のこと」と説明しながら、事実をただ述べているようにみえる場合でも、状況や相手の受け取り方次第では、相手への非難だとみなされることもあるため、ほぼすべての言語行為は、潜在的なフェイスリスク（フェイスを侵害する可能性）を持っていると言及している。

筆者：今、1から8までアンケートに答えていただいたんですけど、アンケートに対して、全体的な感想をお願いします。

回答者：あんまりボキャブラリーがないなと思いました、自分の。あと、あんまり親しいか親しくないかっていうことに関して分けてないなと思う。っていうのは、親しい人に対して、すごく砕けた言い方をしないかなあ、あいさつでは。

筆者：あいさつでは砕けた言い方をしない理由とかがあってありそうですか。

回答者：えー。

筆者：普通の会話ではそうでもないですか。

回答者：たぶん中身とかが砕けた話をしていて、あいさつに関しては、特に重要視をしていないというか、そうですね。

[J16 インタビュー内容より抜粋]

しかし、なかには、誰にでも定型的あいさつであいさつをしてはいるものの、どのような種類の定型的あいさつを使うかという点に関しては、相手との関係を考慮している人も見受けられた。

例えば、次は、親しい目下と同年輩には「おす」もしくは「ういーす」、親しい目上や親しくない人には「おはよう」、「おはようございます」と言っていた人から得られた内容である。このインフォーマントは、このように定型的あいさつを使い分けていた理由として、前者には「ちゃんとあいさつしなきゃいけない」、定型的あいさつを使って失礼がないようにしたい気持ちを持っている一方、後者にはそれを使わなくても失礼になる危険性がないことを挙げていた。

筆者：ほかの人には「おはようございます」とか「おはよう」とか言っていて、AとB（親しい目下と親しい同年輩）だけは「おす」とか「ういーす」って言ってたんですけど、この人たちに「おはよう」って言わなかった理由とかがありますか。

回答者：何だろう。雰囲気で伝わるかな、みたいな。

筆者：雰囲気で伝わるかな？「おはよう」とかは言いたくないですか、こういう人には。

回答者：いや、言うは言うんですけど、「おはよう」って改めて言うほどじゃないかな、みたいな。

筆者：じゃあ、違う人には「おはよう」って改めて言わなきゃいけない理由とかあったんですかね。

回答者：目上はちゃんとあいさつしなきゃいけないかな、みたいなのはあるし、親しくない人は失礼がない程度に。

[J23 インタビュー内容より抜粋]

また、別れの場面で1度も「さようなら」を用いていなかったJ11は、「さようなら」は「今生の別れ」という意味も暗に含んでいるほか、学生と教師という間柄で用いられる表現であるため、日常生活ではあまり交わさないと答えていた。

筆者：「さようなら」とかそういった教科書で出るようなあいさつ表現が1回も出てこなかったんですけども、そういった言葉は普段は使われませんか。

回答者：あんまり使わないですね。院生室にいる時も「お疲れ様でーす」とか「お先に失礼します」。「さようなら」は違うな。「お先に失礼します」、「お疲れ様です」ですね。

筆者：その言葉を使わない何か理由とか言いづらい理由とか。

回答者：なんか学校の先生みたい。

筆者：学校の先生みたい？

回答者：学校の先生と生徒みたい。

筆者：学校の先生と生徒みたい。

回答者：で、あと、言葉を教えるお仕事もするので、そういう時にはあいさつとして「さようなら」

は教えるんだけど、どちらかというと「さようなら」って言うと今生の別れみたいな。

筆者：今生の別れ。

回答者：今生の別れみたいな、そんな感じもする。けれど、学生には「さようなら」って言って、「先生、さようなら」、「うん、さようなら」とかって。だから学校みたい。そういうのもあって学校的だったり、今生の別れみたいに思ったりして、たぶんそれで使わないのかも。

[J11 インタビュー内容より抜粋]

このように日本人もあいさつを用いる時、様々な要因を考えていないわけではないようだが、そのような意識も定型的あいさつと非定型的あいさつの使い分けには結びつかないようである。その代わり、定型的あいさつを使う際に、どのような種類の定型的あいさつを使うのか、例えば「おっす」を使うのか、「おはよう」を使うのか、などに関しては、相手との関係など自分を取り巻く状況によって表現を選択しているのだと考えられる。

それでは、前述したように「日本人にとっての定型的あいさつは無標Pとして強く機能している」のであれば、なぜ様々な要因による使い分けが行われるのだろうか。

宇佐美(2001: 32)は、談話の基本状態、つまり、無標の状態というものは、「個々の会話ごとに、話者間で交渉されつつ形成されていった「談話」を分析することによって、はじめて同定できるもの」と言及している。つまり、無標の状態とは一般化できるものではなく、個々の談話をつぶさに調べながら、その1つの談話における無標とは何なのかを同定しなければならないものだという事である。例えば、仲の良いクラスメートがおり、その人とは毎日、何のあいさつも交わしていないとしよう。「あいさつしないこと」が無標の状態だといえる。しかし、そのクラスメートに対して何かしらの誤解をしていたことに気づき、ある日、「これからは仲良くしたい」という気持ちを持って、笑顔で「おはよう」とあいさつしたとしたり、その「おはよう」という定型的あいさつは、この場合に限り、PPとして働く。また、ある職場の同僚2人によるあいさつについても考えてみたい。この2人は仲が良く、私的に会った際には「あー、疲れた」などと非定型的あいさつで会話を始めるが、会社で会った時は、「公的な場面」という要因が作用して、「おはようございます」と、いつもあいさつしているとしよう。この場合、私的な場面では非定型的あいさつ、公的な場面では定型的あいさつを使うことが無標の状態となるため、私的な場面で「おはようございます」と言ったら、悪ふざけをしている、のような発話効果が生じると推測される。どのような状態が無標だと捉えられるかは、人間関係によっても異なるだろうし、場面の制約なども受けて変わることが予想されるため、1つ1つの談話における無標の状態を同定してからでないと、その発話が生み出す効果を正しく判断することはできない。

したがって、本研究では「日本人にとっての定型的あいさつは無標Pとして強く機能している」と主張したが、日本人によって発せられるすべての定型的あいさつが無標Pだという意味ではなく、日本人に産出される多くの談話では、定型的あいさつが無標のものとしてみなされているという意味でそう言及したのである。

定型的あいさつの発話効果は、性別、年齢、地域、場面などによっても、ある定型的あいさつに対する意識が異なる可能性がある。「日本人によって産出される多くの談話では、定型的あいさつが無標のものとしてみなされている」ということを念頭に置きながらも、1つ1つの談話をみながら、その基本状態(無標の状態)を同定し、それぞれの定型的あいさつの発話効果を判断すべきだと考える。

5. まとめと今後の課題

本研究では、インタビュー調査によってあいさつに対する日本人・韓国人の意識を探り、あいさつの日韓差が生じた原因を明らかにすることを試みた。

その結果、まず「なぜ日本人は韓国人よりも定型的あいさつを多用するのか」という問いについては、日本語の定型的あいさつが主に無標Pとして機能するためだということをはっきりとすることができた。会話の前後に定型的あいさつを交わすこと自体が、日本人にとっては当然であるため、誰に対してでも定型的あい

さつを用いる結果、自然とその使用頻度が高くなるのだと推測される。

一方、韓国人は、親しくない人にもみ定型的あいさつを用いるため、全体としては、日本人よりも定型的あいさつを使用していないようにみえるのだと考えられる。

「なぜ韓国人は相手との親疎関係によってあいさつを使い分けるのに日本人はそのような使い分けをしないのか」という2つ目の問いについては、相手に対する関心・好意、礼儀の必要性の有無が親疎関係によって異なると韓国人が思っており、親しくない人にはNPである定型的あいさつ、親しい人にはPPである非定型的あいさつを使っていることが明らかになった。親しい人に定型的あいさつを用いていた人も見受けられたが、そのようなインフォーマントにインタビューを行ったところ、韓国人にとっての定型的あいさつは「礼儀・格式、NP」として基本的には機能しているが、「通常、定型的あいさつはこのような言葉を、このような言い方でするもの」というようなイメージが韓国人同士で共有されているため、定型的あいさつを交わしたとしても、それが、そのイメージから外れるものだった場合——例えば、非常に低い声で「안녕? (annyeng? 安寧?)」と言うなどの場合——には、「礼儀・格式」から逸脱したとみなされ、親しみを帯びる可能性があることも示すことができた。

また、日本人は、日本語における定型的あいさつが無標Pとして働いているため、韓国人のように、相手に応じたあいさつの使い分けをしていないと分析された。しかし、日本人も相手との関係を全く考慮していないわけではなく、どのような種類の定型的あいさつを使うかという点に関しては、相手との関係を考慮する人もいることがわかった。

つまり、韓国人の場合は相手との関係が「定型的あいさつと非定型的あいさつのどちらを使うのか」に影響を及ぼすが、日本人の場合は相手との関係が「定型的あいさつを使うには使うが、どのような種類の定型的あいさつを用いるのか」に反映されるという違いがあるということになる。

本研究では、インタビュー・データをBrown & Levinson (1987 [1978])によるポライトネス理論とその修正理論から解釈し、あいさつの日韓差が生まれた原因を明らかにしようと試みた。だが、数十名の母語話者からしか聴取を行えず、「データからこのような考え方ができる」ということを提示することしかできなかった。今後、量的調査を行い、本研究における言及を立証していきたい。また、日韓のあいさつ様相を左右する要因は1つとは限らず、いくつか複雑に絡みあいながら日韓差が生じた可能性もあるため、多方面から原因を探っていくことも今後の課題としたい。

参考文献

- 任榮哲・井出里咲子 (2004) 『箸とチョッカラク —ことばと文化の日韓比較』大修館書店
- 宇佐美まゆみ (2001) 「談話のポライトネス —ポライトネスの談話理論構想—」『談話のポライトネス』(第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書), 国立国語研究所, 9-58
- 宇佐美まゆみ (2008) 「相互作用と学習 —ディスコース・ポライトネス理論の観点から」西原鈴子・西郡仁朗(編)『講座社会言語科学 第4巻 教育・学習』ひつじ書房, 150-181
- 岡村佳奈 (2015) 「出会いの場面における日韓挨拶表現の対照」『韓国学のフロンティア』1, 4-25
- 金香来 (2000) 「あいさつ行動の日韓比較研究」奈良女子大学大学院博士学位論文
- 小林祐子 (1981) 「日本人とアメリカ人の挨拶行動 —出会いの挨拶—」『東京女子大学附属比較文化研究所 紀要』42, 87-110
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』研究社
- 土屋頼子 (1998) 「言語行動を構成する要素とその機能 —出会いのあいさつを中心に—」『筑波応用言語学 研究』5, 57-69
- 名倉康司 (2005) 「日本語教育におけるコミュニケーション・ルールの教え方 —日韓挨拶表現のギャップに関する考察に基づいて—」『愛知産業大学日本語教育研究所紀要』2, 69-80
- ネウストプニー J.V. (2002) 「データをどう集めるか」ネウストプニー J.V.・宮崎里司(編)『言語研究の方法 言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』くろしお出版, 15-33
- 김선정・김예지 [キム・ソンジョン & キム・イエジ] (2011) ‘중국어인 한국어 학습자의 인사 화행 연구

—언어적·비언어적 접근— ‘언어와 문화’ 7 (2), 55-79

박수란 [パク・スラン] (2005) ‘한국어 교육을 위한 한국어 인사 표현 연구’ 이화여자대학교 대학원 석사학위논문

朴英順 (2003) ‘한일양국인의 인사행동에 관한 사회언어학적 연구’ 계명대학교 대학원 박사학위논문

서정수 [ソ・ジョンズ] (1998) ‘한국어, 일본어, 영어 및 중국어의 인사말 비교 연구’ “비교한국학”4, 13-36

Brown, P. & S. C. Levinson (1987 [1978]) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge University Press (田中典子 (監訳) 2011 『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』 研究社)